

# 仙台市教育センター 051111

先生の書著を二冊読んでいたので迷わず講演を申し込んだ。先生が毎日を生き生きとすごしているのは図によって仕事や予定がクリアになっているからなのだろうな。と思った。

研修で学んだこと、教師には、連携する人の確認をすること、また目的を明確化することが必要である。子どもには、図で板書すること、また発表の仕方に活用していくこと。この両方により、よりよい学校ができると思った。

今年度研究の担当になったものの、どのようにまとめていったらいいか迷っていた。自分の仕事の中身を図式化することで必要なこと、いらぬことがはっきりしてきた気がする。物事を整理するとき、図解することは私達にとっても必要だし、子どもが自らを整理するときにも役立つと思った。大変勉強になった。

これまでは授業の流れをつかんだり、組み立てたりする際にメモ程度の図式化を行ってきたが、報告書等、文書そのものを図式化して表現するという先生の話聞き、認識を新たに。理論的にも納得のいくものだった。今後は作文力の向上と共に、表現の技術を高めていきたいと考えている。研究主任として先生のお話を職員にも広げていきたい。

自分の頭の中、考え方がすっかり箇条書きになってしまっていたのではないかと気づいた。構造的な板書を毎日心がけなければならない。小学校の教師がこのあり様。自分を見つめなおす良い機会になった。物事の軽重を考え、人に伝えることの難しさを実感した。

自分も図にすると簡単に、あるいはすっきりすることを日々感じ、実践しているなあ。と思いつつ、どんどん引き込まれていった。研修主任という立場上、「研究の構造図」をつくるが、全職員が理解できるようわかりやすい図を作れるようにならないといけないと思った。先生にお聞きしたことも、楽しく取り組んでいきたいと思う。

一年ほど前に先生の著書を拝読し、実践しているところだった。

問題の所在の把握と解決策の検討のために、事柄の要素を抜き出し、関係性を表現できる。図解が有効であることを学んだ。図にして、単純化していることを常に忘れずに、「定義の奥にある現実の複雑さへの考慮」を併行して行わなければならないと思う。図解を通して解決するというアプローチは「行動する」ということに結びつき、積極的な問題解決への武器になると思う。先生のリベラルな姿勢にも共感させられた。

図解すると頭が整理できることは昨年痛感した（昨年も先生の講義を受けた）。講義を受けてから文章ではなく、図で表すことができないか常に意識するようになった。今回は複雑になってしまった図をいかに簡単な図に示していけるのかを課題に参加した。簡単にはできない問題だが、図を書き、変化させていく中でその方向が見えきたような気がした。

今まで何度か同じように考える方とアイデアを持ち寄り、構想を練ったことがあったが、今ひとつわからないな、と思っていた。しかし、パワーポイントでプレゼンを作るようになって、図で表現するとわかりやすいと思うようになった。先生の話はその裏づけとなる理論かなあ、と思う。今後はもっと活用していきたい。